

2018年度承合事項 回答

(配列:回答到着順。回答校名なし)

1. 書庫狭隘化対策について

(1)貴館では蔵書の増加に対する保存スペースの確保の問題が生じていますか。

生じていません
生じています。
はい。
生じている。要望を出してはいるが全て却下され、本を処分して対応するよう指示される。所蔵スペースが手狭になってきている。
はい。 外部倉庫、学内での保管スペース確保等を具申しましたが、「廃棄」との経営判断がありました。緊急とまではいかないものの、保存スペースは常に余裕のない状態が続いています。
生じておりません。
生じつつあります。
生じている
生じています。毎年、新規購入図書、退職教員の返却図書の配架スペースを確保するのに苦労している状況です。
はい
2012年にコンテナ式自動書庫を導入しましたが、残りスペースの問題が生じつつあります。余裕があるとは言えないが、今のところ特に問題はない。
はい。教員の個人研究図書は退職時に返却することになっています。図書館の書庫スペースが狭く、複本は置かないことにしていますが、それでも狭く、学内で他の場所での書庫確保を学長に訴え続けています。
・開架書架の収容量が90%になっている
生じている。非常に手狭となっている。
生じている。
生じている。
はい。
生じています。
今は生じていない。
問題が生じている。
生じていません。
書庫の狭隘化が問題となってきている。
保存スペースが残りわずかとなり、昨年度に全学的に議論し、基本方針を策定した。現在は実施案を検討している。
生じている。
生じています。
数年前から蔵書スペースの狭隘化については、問題視している。
2年程前に書庫を増設したため、現在の図書に関しては、保存スペースがあります。
生じつつある。
以前はスペース確保が難しくなりつつあったが、現在のところ問題は生じていない
生じている。
最初は20年程前に取り組みをしました。近年は、キャンパス統合(2015年)により分館分を収蔵するために大きな取り組みをしました。現在も取り組みを継続しています。
問題が生じている
生じている。
生じている
生じておりません。
現時点では生じていない。
生じています。
保存スペースは余裕のない状態です。
狭隘化が進んでいます。
生じています。

(2)現状の保存書庫の状況で、今後どの程度の期間、収容可能と予測されていますか。

来年度学部閉鎖ですのでそれまでの期間
約1.5年
約5年と予測しています。
廃棄しなければ2～3年でいっぱいになる。
約2年間
現状、余裕はありません。
(3)にて回答の緩和策(廃棄)を行い、現状維持をこころがけています。
5年程度を予測しています。
コーナーにより状況が異なりますので予測が困難です。
10年程度
約5年
現状でほとんど満杯状態です。
現時点では具体的な期間はわかりませんが、(3)の例も含め、対応しているところでは
4～10年?
収容能力77万冊の図書館で、現在約50万冊の蔵書があります。
5年以内と考えています。
・5年間で40000冊程度
書庫内の整理がすすんでも、あと数年で限界だと認識している。
仮書庫で対応している為、早急な対応が必要と考える。
現在のところ数年間は収容可能。
数年内。
所蔵109,843冊、収容能力112,000冊 残2,157冊分になります。
※年間約1,500冊受け入れ 今のままでは2年たたない内に超える見込みです。
5年程度。
10年程度と考えております。
20年以上。
特に予測は行っていない。
約2年半
・収容率は90%を超過している。
・年によりどの程度の書籍が配架されるかで期間は流動的だが、喫緊の課題である。
3～4年で満杯になると予測しております。
2018年3月31日現在での収容限界年数を有瀬館・15年、ポーアイ館・18年程度であると算出している。
図書に関しては、約10年程は、保存可能と思われる。
しかし、雑誌等の消耗図書に関しては、保存場所(倉庫)が狭いため、収納BOX等に入れ保存している。
2年から3年
5年程度
約10,000点
排架場所により収容可能期間が異なります。現在は、雑誌を収容しているところが何とか収容できている状態です。
90cmに対して25冊収容すると計算した収容能力を現在3万冊ほど上回っている。
分野により、3～4年で書架が飽和状態となる考えている。
現在の購入ペースが続けば、2、3年で満杯となる。
狭隘化の問題が生じていないため、当該予測は行っておりません。
現状の書庫にて対応していく予定であるため、収容量を超えないようになんらかの措置を講じていく。
ほぼ満杯状態です。
余裕はありません。
資料の購入数にもよりますが、書架も含めて4～5年程度の余裕を考慮しながら検討しています。
既に満杯状態に近いところまでできています。

(3)狭隘化が進む段階で進められている緩和策を行っている場合、その具体的な内容を教えてください。

緩和策はありません
事務スペースを整理して、利用率の低い図書を移動しています。
複本や、内容が古く利用価値を失ったと判断された図書の除籍をおこなっています。
購入する本について毎年見直ししている
古く、資料的価値のない本の廃棄
重複図書の除籍を行っている。
・利用がない、情報が古くなった、重複している資料の廃棄 ・雑誌の保管年限の上限を策定、バックナンバーの廃棄 ・電子資料購入の促進 ・ビデオ版からDVD版へ買い替え
指定参考書や紛失図書などは、基準を決めて年に1回、定期的に除籍をするようにしています。また、カレントの学術雑誌の購入は電子ジャーナルに移行すること、バックファイルを購入して電子化を進めることなどを心がけています。
消耗図書等で、資料的価値を失ったものについては所定の手続きをとった上で除籍しております
検討中
書架の増設
緩和策と言えるかどうかは分かりませんが、計画的な除籍、設備図書の購入を抑える、電子資料の購入を奨励するなどは行っています
規程にもとづき、除籍が認められた資料については除籍をすすめ、予算が認められた範囲で少しずつ書架増設もおこなっています。
当初配架していなかった、最下段を使用する程度です。
適切に除籍を行う。蔵書を適切に更新し、資料を整備することを目指しています。
特にありません。
・除籍 ・書架増設
資格に関する書籍等の整理・処分を進めている
・旧版など利用頻度の少ない資料の書庫への移管 ・複本除籍の実施
図書資料管理規程に乗っ取り、1年に1回除籍する。
雑誌は、廃棄を前提に整理し、一定の保存期間が過ぎれば、教員に告知した後、廃棄する。
重複図書の除籍など。
利用の少ない資料で副本があるもの、不要資料の除籍や準貴重書等の別置を行っています。
重複除籍、冊子体雑誌の電子ジャーナルへの媒体変更。
図書委員会で除籍資料を検討し、除籍を進める予定です。
策定された基本方針(蔵書の除籍、電子書籍の導入、他大学紀要の図書館受入停止、退職教員還流図書の冊数見直し)の実施案を検討中である。
・事業協力している大学との分担保存。 ・バックナンバーの閲覧保証がある電子ジャーナルに相当する資料の除却。 ・電動書架の設置。
現在検討中(蔵書構成の再検討等)
不要(重複等)な資料の除籍作業を進めている。→除籍後は利用者にもリユースしている。
電子ブックの導入等 資料の電子化推進。
基本的に資料寄贈の申し出をお断りしている。
特にありません。
この度の承合事項で、本学でも他大学の緩和策をご教示くださる機会にしたいです。
現在、収容スペースはあるので、緩和策は取っていない。
ネット閲覧可能な紀要の受入停止、廃棄。過去に存在した学科に関する学術雑誌の廃棄。
・年鑑・白書・逐次刊行物のバックナンバーの保存期間の見直し(短期化)と、それに従った除籍・廃棄。 ・個人研究費での購入資料は、一部を除いて消耗図書扱いとする。

<p>①各大学の論集・紀要などの処分、保存期間の短縮。リポジトリで公開されている大学には送付停止をお願いする。</p> <p>②重複図書の処分</p> <p>③利用されない、利用されないことが予想される資料の処分</p> <p>④電子ジャーナル、電子ブックなどに切替を検討する</p> <p>⑤原則寄贈図書についてはお断りする。</p>
<p>開学当時とは学科学部構成が大きく変化しているため、現状に合わせた蔵書構成にするべく、一定の基準を設定し、除籍作業を行っている。</p>
<p>基本的に閲覧室の書架は、固定書架としていたが、数年前に移動書架を導入し、収蔵スペースの増加を図った。</p>
<p>重複本、資料価値を喪失したもの、汚破損のひどいものを除籍処理している。</p>
<p>特段行っておりません。</p>
<p>不要、重複資料の除籍。</p>
<p>重複している図書や、あまり利用されていない図書の除籍を行っています。</p>
<p>現在使用していない場所に書架を設置して、一時的に配架しています。</p>
<p>除籍・廃棄処理を積極的に行っています。</p>
<p>①書庫内の未整理資料の整理、事務書類の整理</p> <p>②リポジトリ登録されている資料について冊子体の整理</p> <p>③複本がある図書の整理</p> <p>④保管期間の変更(新聞)</p> <p>⑤保管期間の変更や廃棄に対する理解を得るため、狭隘化の現状を委員会で詳しく説明、学長に報告し、保管期間の規程を変更した。</p> <p>(例)「今後3年で占有率98%になる」など数値化して説明</p>
<p>重複本や内容が古くなり利用価値がなくなったと判断される資料の除籍をしています。</p> <p>法人から年間除籍金額が示されるため、上限額増額の交渉をしています。</p> <p>教員からの資料寄贈は、原則、お断りしています。</p>

(4) 将来的な対策および計画があればお聞かせください。

<p>将来対策はありません</p>
<p>①法人財務部門と調整のうえ、除籍の計画化を進めています。</p> <p>複本、資格就職問題集・コンピュータ関連の古い刊年のもの、書誌目録など、不要とみなせる条件をふまえて、現時点で除籍できる資料の全体冊数・資産額を算出し、それを中長期計画で除籍する、というものです。(着手したばかりで、事例はありません)</p> <p>②閲覧室フロアの空きスペースに書架を増設する計画はあります。予算折衝ではなかなか認められませんが、PC等のリース切れのタイミングなどに捻出し、実現するつもりです。</p>
<p>特にありません。</p>
<p>お金・マンパワーが必要なこともあり、特にありません。</p>
<p>現在は、重複する資料を処分するのみの処理で対応している。</p>
<p>なし</p>
<p>まとまった資料(主に古くなったもの)の除籍を検討しています。</p>
<p>特にございません。</p>
<p>集密書架の増設</p>
<p>現在のところ、施設的にも財政的にも「将来的な対策および計画」を考える余裕がありません。</p>
<p>現時点では、何もありません。</p>
<p>特にありません。</p>
<p>電子書籍への移行を進めるくらいしか対策は考えていません。</p>
<p>・集密書架設置</p>
<p>特にありません</p>
<p>特になし。</p>
<p>大学の計画として建て替えの計画がある。</p>
<p>現在のところありません。</p>

<p>書庫増設。 (現在は100万冊収容可能な躯体に60万冊収容可能な書庫が設置されている。時期未定ではあるが、残り40万冊分についても増設の予定である。)</p>
<p>図書委員会で除籍資料を検討し、除籍を進める予定です。</p>
<p>・現在、鋭意検討中。</p>
<p>本館ではほぼ閲覧室の開架スペースのみで保存用に特化した書庫等を設置していないので、以下、開架スペースとして回答します。 2011年に約47,000冊(当時、保存書庫に収蔵していた資料および狭隘化していた開架に配置されていた資料)を学外倉庫へ移転させ、閲覧室の書架での配架の割合を80%程度に下げたため、現時点では問題はありません。ただし2021年以降に伊丹図書館がメディアライブラリーCELLに統合される予定があり、それに際しては統合先のメディアライブラリーCELLの収蔵冊数を超過する見込みです。 しかし増築や大規模な改修などの計画はありませんので、両館で重複本や経年による価値低下本などの整理をいっそう徹底に行って蔵書の合理化を図るとともに、学外倉庫への移転をすすめて館内書架のスペースを確保する計画です。</p>
<p>本学においても、狭隘化が進み今後どうすれば良いか、緩和策を模索中です。回答結果を是非参考にさせていただきたく思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
<p>現行では、特にありません。</p>
<p>将来的には保管場所の増設希望はあるが、今の段階での計画等はありません。(経費面や空間場所がないなどの諸問題があるため。)</p>
<p>次年度に予算計上できれば、書架を増設する。</p>
<p>特になし。</p>
<p>集密書架、倉庫的なもの、保管庫を借りるなど、検討してきましたが、さまざまな問題があり、現状のままの保存スペースで収蔵を考えて行く必要があります、当面は、上記(3)②③を重点的に進めている状態です。</p>
<p>対策については、現在は特にないが、電子書籍を導入するなど時代に合った資料収集方法に変更していくべきと考えている。</p>
<p>地下書庫の固定書架を移動書架に置き換える提案を行うことを考えているが、それに伴って、新たに必要な人員も確保する必要も生じるため、設備投資のみならず人件費の確保も必要となってくるが解決すべき問題として残っている。 (図書館内での検討事項で、現在のところ予算化等の申請には至っていない。)</p>
<p>検討中です。</p>
<p>特段ございません。</p>
<p>特になし。</p>
<p>大学の将来構想の一環として図書館の立て替えをする予定ですが、時期等は全く未定です。</p>
<p>予算が削減されているので、受入スピードが緩やかになっています。受入点数以上に積極的に除籍・廃棄処理をすることで対応する予定です。</p>
<p>今後の対策(案) レイアウトの変更(雑誌架を撤去し、通常の書架にする、机・椅子の小型化など)</p>
<p>書架増設等の申請をしていますが実現していません。 電子書籍の導入も、なかなか進みません。</p>